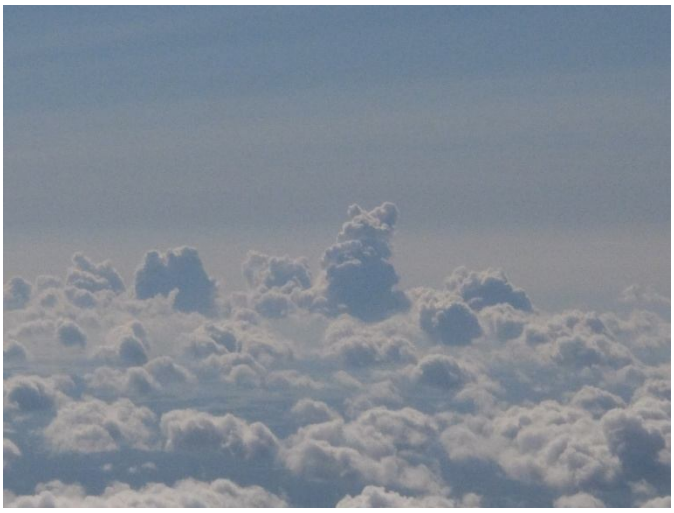
「日々の理科」（第 1151 号） 2017（H29),-8,31

「北極圏旅行記 2017 夏（34)」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

～8/3　ヘルシンキへ～

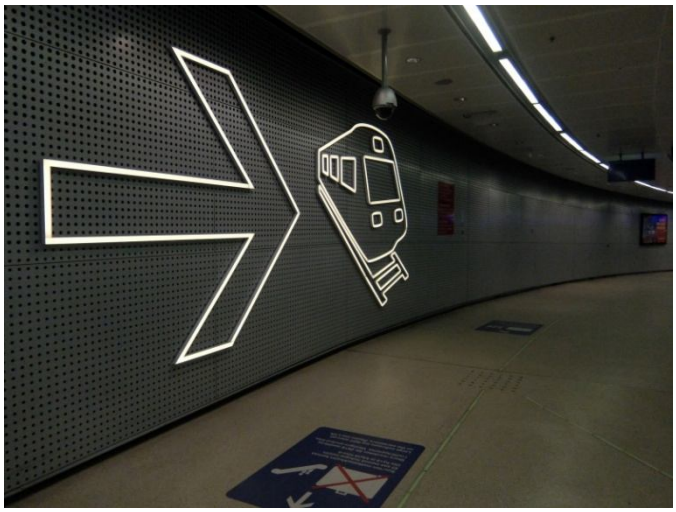
ロバニエミ～ヘルシンキの航空路は、フィンランドの国内線の中でも比較的需要が高く、フィンランド航空を中心に、一日に６往復ほどが飛んでいる。



私は飛行機から雲を観察するのが好きだ。上写真は「搭状雄大積雲」といって、対流圏の安定層を積雲が突き破って、積乱雲になりつつある姿だ。いや、何となく「トトロ」に似ていた。

帰りの便も最前列（本来はビジネスクラスの席、なんだけど、エコノミー料金で乗れた）だったので、コックピットがよく見えた。ほとんど開けっぱなしで、ローカル線ののどかな雰囲気。

以前、ヘルシンキに来た時は、大使館の人が専用出口まで車で迎えに来てくれるという、超ＶＩＰ対応だったが、今回は誰も出迎えがいない。乗り換えの日航機まで時間があったので、地下のコインロッカー（使い方が難しい）に荷物を放りこんで、電車に乗って「市内見物」に行くことにした。



こういう表示は、言語に関係なく、非常にわかりやすい。フィンランド人にも、ネパール人にも、日本人にも一目で「電車乗り場、あっち」とわかる。たぶんチンパンジーやコオロギでもわかるだろう。

市内行きの電車は循環運転のような感じで、ＰとＩの２系統がある。ＰとＩは回る向きがちがうだけで、どちらも終点は「ヘルシンキ中央駅」だから安心である。所要時間も大差ないので、来た電車に乗れば良い。

ヘルシンキに限らず、ヨーロッパの駅には「改札口」というものがない。切符は買わなくても、乗ろうと思えば乗れる。しかし、切符は駅（空港）で買っておいたほうが良い。駅で買えば、往復 10 ユーロ、一日券 16 ユーロで済むが、無札乗車だと大変！何と車内で 80 ユーロ（１万円以上）も請求される。

車内は広く、３列―通路―２列と、日本の新幹線と同じレイアウトだ。犬や自転車が乗れるスペースもある。昼の時間帯だったので、乗客はまばらで、ゆっくりと景色を楽しむことができた。

車窓から見た、中央駅近くの公園。ヘルシンキはフィンランドの首都だが、街そのものがリゾート地のように美しい。

約 30 分で、ヘルシンキ中央駅に到着。空港からのアクセス電車だけでなく、フィンランド各地への長距離列車や、国際急行列車などが、ひっきりなしに発着していた。アナウンスの声や発車ベルは一切なく、静かだ。そのかわり、掲示板が非常にわかりやすく、迷わずに目的の列車に乗れるようになっている。

中央駅のコンコース。私は以前ここで、現地の若い人にいきなりデートに誘われたことがある。突然のことで、しどろもどろしながら断ってしまったが、今思えば、断らない方がよかったかもしれない。残念ながら、この日は中国人に「厠所在哪？」と聞かれただけで、現地の若い人からの誘いはなかった。

ヘルシンキでは、３両編成のトラム（路面電車）が元気に走り回っている。石畳の線路を走るトラムは、異国情緒があって、絵になる。背後の立派な建物は「中央郵便局」である。

日本の都会にも、路面電車を復活させたい。私は「道の中央」ではなく「道の端」に線路を敷いたら良いと思っている。子どもやお年寄りは安心して乗れるし、路上駐車ができなくなるので、むしろ渋滞も減るだろう。まずは、春日通りで実現できるよう、都知事に要望書を送りたいと思っている。